

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「熟語の読み方」 教材名「熟語の読み方」

2 単元の目標

学習した漢字を語の中で読み、文の中で使うことができる。読み札や文を読み返し、読みと意味が合うかを確認することができる。言葉の働きを確認、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①学習した漢字を語の中で読み、文の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ）	①「書くこと」において、読み札や文を読み返し、読みと意味が合うかを確認している。（B(1)オ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

熟語を構成する漢字の音と訓を確認、音と訓を組み合わせる読み方にも注意して文中で正しく読む。読みの分類を覚えるだけでなく意味と文脈を結び付ける。学習指導要領のB(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)エを、言語活動の中で確かめる。年間指導計画の重点項目は知識・技能である。本案では、身に付けた知識を文や話の中で使う言語活動に対応する思考・判断・表現の事項も関連付けている。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

独自例「本棚」「手帳」を辞書で調べ、漢字ごとの音・訓の別を確認。各語を短い文で使い、読み方だけでなく文の意味も説明する。教科書固有の問題は転載しない。おおむね満足できる状況は、読み札や文を読み返し、読みと意味が合うかを確認しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確認する支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○熟語を声に出して読み候補を比べる。漢字ごとの音と訓を辞書で確かめる。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本 時）	○音訓の組合せで熟語を整理する。自作文の中で読みと意味を確かめる。	思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

読み札や文を読み返し、読みと意味が合うかを確認することができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この熟語は、どの漢字を音で読み、どの漢字を訓で読んでいますか」 【めあて】熟語を構成する漢字の音と訓を確認、音と訓を組み合わせる読み方にも注意して文中で正しく読む。 〈予想される児童の反応〉 ・一つの語で音と訓が混じっている。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「この熟語は、どの漢字を音で読み、どの漢字を訓で読んでいますか」 音訓の組合せで熟語を整理する。自作文の中で読みと意味を確認する。 漢字ごとの音・訓の印、熟語の意味、その語を使った自作文。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・一つの語で音と訓が混じっている。 ・同じ漢字でも別の熟語では読みが変わる。 ・文の意味と合わせて正しい読みを確かめた。	独自例「本棚」「手帳」を辞書で調べ、漢字ごとの音・訓の別を確認する。各語を短い文で使い、読み方だけでなく文の意味も説明する。教科書固有の問題は転載しない。 想定するつまずき：熟語はすべて音読み同士と思い込む、読みを分類しても意味を説明できない。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 読み札や文を読み返し、読みと意味が合うかを確認している。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・文の意味と合わせて正しい読みを確かめた。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確認する。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この熟語は、どの漢字を音で読み、どの漢字を訓で読んでいますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

